

国立大学図書館長会議（第12次）

標記の会議は6月30日、7月1日の両日、文部省主催の国立大学図書館研究集会（6月29日～30日）にひきつづいて、北海道大学で開催された。

研究集会のテーマは「指定図書について」であり、とくに本年度はこの問題一本にしぼったところに文部省の指定図書に対する熱意がうかがわれた。

図書館長会議には、各地区から22の協議題が提出されたが、そのうちの9議題は定員増と図書館維持費の増額に関するもので、毎年出されるこれらの問題に対する協議題の多さからしても、今の大学図書館の定員ならびに予算の不足の深刻さが痛感される。さらに今年度は指定図書費の予算化

に関して議題が出されたが、指定図書制度の充実に対する館界の期待のほどが想察される。

新しい提案としては「職員数算定基準のための事務量の調査」及び「図書の廃棄、不用決定の基準」等があったが、いずれも館長会議の中で委員会を設けて今後検討を続けることになった。

会場の札幌は、梅雨のなごりのまだ明けきらぬ陰うつな日が続いたがクラーク会館の中の会議は連日、熱心な討議の花をさかせ、盛会のうちに終了した。

本学からは館長、事務部長、整理課長が参加した。

近畿地区大学図書館研究集会

近畿地区国公立大学図書館協議会の主催で、大学図書館研究集会が8月26、27の両日、京都大学楽友会館で開催された。

本年度は地区で委員会を設けて検討している「大学図書館の相互協力活動」及び「図書館資料の廃棄基準」の問題をテーマにして、これまでの検討成果を各委員から報告して、質疑応答を行なった。両日とも約

70名の参加者があり盛会であった。また研究報告のうち、とくに山田修氏（大阪市大）の「学術雑誌の廃棄基準について」及び酒井忠志氏（京都府大）の「単行本の廃棄基準について—京都府大の調査例を中心に—」は質的にきわめて高いものとして注目された。

国立国会図書館長来館

関西地方図書館視察中の国立国会図書館長河野義克氏、同連絡部長廿日出逸暁氏の一行は去る9月9日（木）午前9時本館を訪問し、堀江館長等と会見、その席上館長より本館の現状、将来計画等について説明があり、国会側より相互協力、館外活動等について説明があった後、種々懇談した。

使いやすい図書室へ

— 農学部図書室 —

農学部図書室では利用上いろいろ不満な点が生じてきたため、このたび従来の1階専務室2階閲覧室を改め、二階を閲覧室、1階の2/3を専務室、1/3を閲覧用に使用することにした。

この移動により閲覧面積が従来より広くなり、2階の足音、天井が低いため照明が充分でなかった等の欠点が解消されることになった、反面窓口が2つになるため専務・閲覧者にとって若干の問題がおこるがこれは館員の努力でカバーして行きたい。

医学図書館と改称される

— 医学部図書館 —

6月12日、医学部図書館として竣工を見たが、その後結核研究所およびウイルス研究所から同図書館の運営委員が選出されたので、8月17日の教授会において医学図書館と改称することを決定した。

文学部史学科閲覧室移転

陳列館にあった文学部史学科閲覧室は東館新館の完成によって同所に移転し、約10万冊の図書を新書庫に移した。すでに整理も終り9月1日より開館している。

外国雑誌展示会

去る9月14日（火）より17日（金）までの4日間陳列室において本館の主催で丸善の協力のもとに、自然、人文各部門にわたる外国雑誌約2千種類を展示したが毎日参観者多数あって有意義であった。